



インドネシアの紹介

インドネシアは、東南アジアに位置する13,466の島で構成される島嶼国家です。総面積は約190万平方キロメートル

熱帯林と火山の国 インドネシア駐在で感じたこと

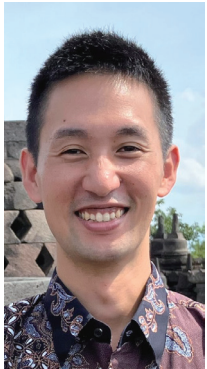


南スマトラのユーカリ人工林

ルで、日本の約5倍の広さがあります。人口は約2億8,000万人(2024年時点)で、世界第4位。首都はジャカルタで、ジャワ島に位置していますが、現在、東カリマンタン州のヌサンタラへの首都移転に向け、準備が進められているところです。

国民の約87%がイスラム教徒で、世界最大のムスリム人口を有する国家でもあります。民族は300以上、言語は700以上存在する多民族・多言語国家で、国語にはインドネシア語が用いられています。

インドネシアはニッケルや石炭などの天然資源が豊富で、これら資源の輸出・活用が経済の柱となっています。国民の平均年齢が約30歳、豊富な労働力の存在を背景に、1,500社程度の日系企業が当地に進出しています。森林・林業分野では、豊富な森林資源を背景に、特に熱帯合板の主要輸出国として現在でも一定の輸出量があります。かつて、木材製品の多くは天然林



在インドネシア日本大使館
若林 甫

から産出される木材で作られていたことが、今ではその多くが人工林から算出される木材で作られるようになっていきます。

インドネシアに対する国際協力について

独立行政法人国際協力機構(JICA)を通じた森林分野における国際協力として、森林火災対策、マングロープや泥炭地における温室効果ガス排出対策に関する協力があります。特に象徴的な案件は、バリ島を中心としたマングロープ保全に関する協力



マングロープの植栽

で、このプロジェクトは1990年代から継続的に実施され、インドネシア側の種苗の育成方法や植林技術の向上・普及が図られてきた結果、現在では、インドネシアは日本の協力により設置されたマングローブ情報センターを拠点に世界のマングローブ保全のイニシアチブを取る立場に変わっています。



泥炭地の調査に同行 ジャングルの中を進む



表層で火災が発生した泥炭地 よく見ると樹木が枯れている



ユーカリの育成選抜検定林

✈️ 気候変動対策の取組について

温室効果ガス排出対策に関して、インドネシアが取り組むNDC（国が決定する貢献）によると、国際的な支援を受けることを条件に、2030年までに43・20%の排出削減を目標に掲げています。このうち

森林を含む「林業及びその他の土地利用」の貢献度が約60%とされていることが特徴です。なお、前政権下では炭素クレジットの海外持ち出しに慎重な姿勢でしたが、2024年10月に就任したプラボウォ大統領の下、炭素クレジットの国際取引を積極的に行う姿勢に変容しつつあります。

登山について

インドネシアには中部ジャワ州のSindoro山、Sumbing山、ジャンビ州のKerinci山、西ジャワ州のGede山、Ciremai山、西ヌサトゥンガラ州のRinjani山などの山があります。多くが国立公園内に位置し、どの山も火山活動が活発で、富士山のような単独峰と巨大なクレーターが特徴です。特にRinjani山は国外からも登山に訪れる人がいるほど有名で、約3,700mからの眺望と、渓谷歩き、川の横にある野趣にあふれる温泉が楽しめる美しい山ですので、おすすめしたい山の一つです。



Rinjani山頂上

